

2 研究の実際

(4) 授業実践(第6学年)

題材 「和音の美しさを味わおう」

教材 「星の世界」(川路柳虹 日本語詩/コンバース 作曲/飯沼信好 編曲)
 「雨のうた」(鹿谷美緒子 作曲)
 「和音の音で旋律づくり」

題材について

題材「和音の美しさを味わおう」は、学習指導要領「A表現」の(1)エ「各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと」、(2)ア「範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること」及びエ「各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること」、(3)イ「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること」を受けて設定した。

高学年の児童は、和音や和声に対する感覚が著しく発達する。その時期に、いろいろな形態の合唱や合奏などを通して、音の重なりや和声などの響きによる様々な特徴を感じ取ったり、音楽づくりの活動を通して旋律に合う音や和音を探ったりするような活動に取り組むことは重要である。

そこで、本題材では、和声の美しい響きを感じ取りながら、各声部の歌声や楽器の音、全体の響き、伴奏などを聴き、合唱や合奏、音楽づくりに取り組むことができるようにする。〔共通事項〕は、題材全体を通して、和声の響き、音楽の縦と横の関係を取り上げる。

教材について

題材で取り組む3つの教材には、それぞれ、次のような特徴がある。

「星の世界」【歌唱】

主な旋律に、和音に含まれる音でつくられた副次的な旋律が付けられている。和声的に重なる旋律の重なりを聴き取り、和声の美しい響きを感じ取りながら三部合唱に取り組むことができる。また、3つの旋律が重なる部分と旋律が1つになる部分があり、それぞれの部分について歌い方の工夫をすることができる。

「雨のうた」【器楽】

イ短調→ハ長調→イ短調(A-B-A)の三部形式で構成されている。イ短調とハ長調の和音の響き、その変化の面白さを感じ取りながら合奏することができる。また、イ短調とハ長調の部分では、主な旋律と副次的な旋律の重なり方や、伴奏の演奏の仕方が違うため、和声の響きを感じ取りながら、それぞれの演奏の仕方を工夫することができる。

「和音の音で旋律づくり」【音楽づくり】

I, IV, I, V \flat , Iと移り変わるハ長調の和音に含まれる音を使って、4小節の旋律をつくることができる。移り変わる和声の美しい響きを感じ取りながら、まとまりのある旋律をつくることができる。和音か分散和音のどちらかの伴奏を使って、自分のつくりたいオリジナルの音楽をつくることができる。

題材の目標

- 和音の響きの変化を感じ取りながら、各声部の歌声や楽器、全体の響き、伴奏を聴いて合唱したり合奏したりする。
- 和音の移り変わりをを感じ取りながら、和音に合うまとまりのある旋律をつくる。

題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
「星の世界」の各声部の歌声や全体の響きを聴きながら、自分の声を友達の声と調和させて歌う学習に見通しをもち、主体的に取り組もうとしている。 【関①－歌唱】	「星の世界」の和声の響きや音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取って歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。 【創①－歌唱】	「星の世界」の各声部の歌声や全体の響きを聴きながら、自分の声を友達の声と調和させて合唱している。 【技①－歌唱】
「雨のうた」の範奏を聴いたり、イ短調及びハ長調の楽譜を見たりして演奏する学習に見通しをもち、主体的に取り組もうとしている。 【関②－器楽】	「雨のうた」のイ短調及びハ長調の和声の響き、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出す曲のよさや面白さを感じ取って演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもっている。 【創②－器楽】	「雨のうた」の各声部の音やイ短調及びハ長調の和声の響きを聴きながら、自分の音を友達の声と調和させて合奏している。 【技②－器楽】
音楽の仕組みを生かして音を音楽に構成することに見通しをもち、主体的に音楽をつくる学習に取り組もうとしている。 【関③－音楽づくり】	音楽の仕組みを生かして、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法について自分の思いや意図をもっている。 【創③－音楽づくり】	音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成している。 【技③－音楽づくり】

本題材で位置付ける〔共通事項〕

- (ア) 音楽を特徴付けている要素…調、和声の響き
- (イ) 音楽の仕組み…反復、変化、音楽の縦と横の関係

指導計画と評価の計画(9時間)

次	時	学習活動	教師の指導・支援	評価規準と評価方法
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 斉唱の「星の世界」と三部合唱の「星の世界」を比較聴取する。 ・ 本題材の教材「星の世界」を聴き、三部合唱と斉唱のどちらのよさも生かして歌い方を工夫する学習に見通しをもつ。 ・ 旋律の動きに気を付けながら、主な旋律を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 斉唱と三部合唱から想像した「星の世界」のイメージが違った根拠を和声の響き、音楽の縦と横の関係と関連付けながら考えさせ、曲のよさや美しさをつかませるようにする。 ○ 3つの旋律が重なる部分と旋律が1つになる部分に分けさせ、それぞれの部分の歌い方を工夫させるようにする。 	<p>「星の世界」の各声部の歌声や全体の響きを聴きながら、自分の声を友達の声と調和させて歌う学習に見通しをもち、主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【関① ワークシート・行動観察】</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 副次的な旋律を2つのパートに分かれる。 ・ 和声的な旋律の重なりが生み出す響きの美しさを感じ取りながら歌い方を工夫する。 ・ 3つの旋律が重なる部分と旋律が1つになる部分について歌い方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時を振り返らせ、全体で話し合った音楽のよさや美しさを基に、それらが伝わるような歌い方の工夫について考えさせるようにする。 ○ 歌い方を工夫させながら、更に気付いたことは拡大楽譜に書き加えさせ、グループで表現の工夫を重ねることができるようにする。 	<p>「星の世界」の和声の響きや音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取って歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもっている。</p> <p>【創① ワークシート・行動観察】</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習を基に、更に工夫を重ねる必要があるポイントを見付ける。 ・ 工夫を重ねるポイントについて、どのようなことに気を付ければよりよい表現になるのかを考える。 ・ パートごとに歌い方を工夫する。 ・ 全体で成果発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの練習を基に、表現の工夫を重ねるポイントを2～3つ決めさせ、どのようなことに気を付けて歌えばよいのかを考えさせるようにする。 ○ グループごとに歌い試させながら相互に助言を行わせ、表現の工夫を高めさせる。 ○ 録音して合唱を聴かせ、成長を実感させ称賛する。 	<p>「星の世界」の各声部の歌声や全体の響きを聴きながら、自分の声を友達の声と調和させて合唱している。</p> <p>【技① ワークシート・演奏聴取】</p>

次	時	学習活動	教師の指導・支援	評価規準と評価方法
2	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「雨のうた」のイ短調とハ長調の部分と比較聴取し、それぞれの和声の響きを感じ取る。 ・調による和声の響きの違いを生かしながら演奏を工夫する学習に見通しをもつ。 ・調による和声の響きの違いを感じ取りながら、主な旋律と副次的な旋律を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「雨の歌」の$\boxed{\text{ア}}$と$\boxed{\text{イ}}$の部分と比較させ、調による和声の響きの違いに気付かせるようにする。 ○楽譜を基に、調の他にどのような違いがあるのか音楽の縦と横の関係から考えさせ、曲のよさや面白さをつかませるようにする。 	<p>「雨のうた」の範奏を聴いたり、イ短調及びハ長調の楽譜を見たりして演奏する学習に見通しをもち、主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【関② ワークシート・行動観察】</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・伴奏の低音と和音パートに分かれ、自分が担当するパートに合った楽器を選ぶ。 ・イ短調とハ長調の和声の響きを感じ取り、それぞれの雰囲気合った表現を和音と同時和音の響きの違いを生かしながら工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を振り返らせ、全体で話し合った「雨のうた」の面白さが伝わる演奏の工夫ができるようにする。 ○楽譜をイ短調とハ長調の部分に分けさせ、それぞれの和声の響きに合った演奏の仕方を工夫できるようにする。 ○5～6人のグループをつくらせ、互いに感想や助言を伝え合いながら活動できるようにする。 	<p>「雨のうた」のイ短調及びハ長調の和声の響き、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出す曲のよさや面白さを感じ取って演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもっている。</p> <p>【創② ワークシート・行動観察】</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を基に、更に工夫を重ねる必要があるポイントを見付ける。 ・工夫を重ねるポイントについて、どのようなことに気を付けければよりよい表現になるのか考える。 ・パートごとに演奏の仕方を工夫する。 ・全体で成果発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの練習を基に、表現の工夫を重ねるポイントを2～3つ決めさせ、どのようなことに気を付けて演奏すればよいのかを考えさせるようにする。 ○グループごとに演奏を試させながら相互に助言を行わせ、表現の工夫を高めさせる。 ○録音して演奏を聴かせ、成長を実感させ称賛する。 	<p>「雨のうた」の各声部の音やイ短調及びハ長調の和声の響きを聴きながら、自分の音を友達の音と調和させて合奏している。</p> <p>【技② ワークシート・演奏聴取】</p>

次	時	学習活動	教師の指導・支援	評価規準と評価方法
3	7	<ul style="list-style-type: none"> ・二人で音楽をつくる。 ・2つのパターンの伴奏を聴き、それぞれの伴奏のよさや雰囲気を感じ取る。 ・つくりたい音楽についての見通しをもち、2つの伴奏から使う伴奏を選ぶ。 ・I, IV, I, V 7, Iと移り変わるハ長調の和音に含まれる音を使って、4小節の旋律を二分音符でつくる。 ・つくった音楽を全体で紹介し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○二人で音楽づくりに取り組みせ、互いに感想を伝え合いながら音楽づくりができるようにする。 ○2つのパターンの和音伴奏を聴かせ、それぞれの伴奏からイメージする音楽が違うことから、伴奏も音楽を特徴付けるものであることに気付かせるようにする。 ○和音伴奏のCDを準備し、和音伴奏の響きを感じ取りながら二分音符の旋律を工夫できるようにする。 	<p>音楽の仕組みを生かして音を音楽に構成することに見通しをもち、主体的に音楽をつくる学習に取り組もうとしている。</p> <p>【関③ ワークシート・行動観察】</p>
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・二人で音楽をつくる。 ・前時につくった二分音符の旋律のリズムを、リズムカードを使って工夫し、気に入った旋律に仕上げる。 ・つくった音楽にタイトルを付け、工夫したことを書く。 ・タイトル当てクイズをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○二人でリズムカードを使ってリズムを工夫させることで、即興的にいろいろなパターンを試しながら音楽づくりができるようにする。 ○タイトル当てクイズを行うことで、思いや意図を表現の工夫と関連付けたり、表現の工夫を技能と関連付けたりできるようにする。 	<p>音楽の仕組みを生かして、音を音楽に構成するための試行錯誤をし、つくる音楽やその方法について自分の思いや意図をもっている。</p> <p>【創③ 演奏聴取・ワークシート】</p>
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で音楽をつくる。 ・自分に合った音楽づくりの手順を考える。 ・7～8時目で学習した内容を生かして、オリジナルの音楽づくりをする。 ・つくった音楽にタイトルを付け、工夫したことを書く。 ・記譜をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○つくった音楽にタイトルを付けさせることで、思いや意図を表現の工夫と関連付けたり、表現の工夫を技能と関連付けたりできるようにする。 ○記譜にも挑戦させ、視覚的に、伴奏と旋律の関係を音楽の縦と横の関係から1つのまとまりとして捉えることができるようにする。 	<p>音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成している。</p> <p>【技③ ワークシート・演奏聴取】</p>